

2012 年度 障害者雇用分科会における年度目標の評価について

2012 年度の目標として障害者雇用分科会において設定した年度目標について、当該分科会が実施した評価の結果は、概ね以下のとおりである。

(障害者雇用分科会において設定された年度目標の動向)

○ ハローワークにおける障害者の就職件数について

平成 24 年度の実績は 68,321 件であり、前年度から 8,945 件増加となり目標を上回った。これは、就職を希望する障害者が増加していることや、企業における理解が進んでいること、各種助成金の支援策の拡充を図っていることが理由と考えられる。特に、精神障害者については平成 18 年から実雇用率に算入できるようになったこと、精神障害者の雇用に係る企業の理解が深まってきていること、各種助成措置、就職支援ナビゲーターや精神障害者雇用トータルサポーターの配置などにより、ハローワークにおいて積極的に雇用促進を図っていること、地域障害者職業センター等の支援機関による支援が充実してきたこと、などが理由と考えられる。

○ 障害者の雇用率達成企業割合について

障害者の雇用率達成企業割合については、2013 年 6.1 報告の結果が出た時点で改めて評価を行う。

なお、2011 年度の目標においては 47%以上としていたが、2012 年 6.1 報告で 46.8%（前年比 1.5 ポイント上昇）となっており、目標に達しなかったもののほぼ同水準の実績となった。これは、企業における理解が進んでいること等により、特に 1,000 人以上規模の達成企業割合が大きく伸びた（48.9%→57.5%）こと等が理由として考えられる。（一方、中小企業の取組みが遅れていることから、中小企業に重点を置いた取組みを実施し、改善を図ることが重要である。）

○ 精神障害者雇用トータルサポーターの相談支援を終了した者のうち、就職に向けた次の段階へ移行した者の割合について

2012 年度の実績については 61.7%であり、目標である 60%以上を達成した。これは、トータルサポーターに対しグループ討議等を内容とする経験交流会を行うことにより、トータルサポーターの質の向上を図り、活動を促進したことなどが理由と考えられる。

障害者の就労支援については目標を上回っており、引き続き中小企業への支援の強化や障害特性・就労形態に応じた支援策の充実等により、着実に施策を実施していくことが重要である。